

議長定例記者会見 会見録

日時：平成31年1月11日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

○三重県議会ポッチャ体験会の開催について

2 質疑項目

○三重県議会ポッチャ体験会の開催について

○議会経費削減に関する検討プロジェクト会議について

○安倍首相の伊勢神宮参拝及び年頭会見について

○行幸啓について

○県議選等について

1 発表事項

○三重県議会ポッチャ体験会の開催について

(議長) あらためまして、新年、明けましておめでとうございます。本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。旧年中におきましては、皆様方には県議会の情報発信ということで、大変お世話になりましたことを感謝を申し上げる次第です。本年も引き続き皆様方のお力添えをたまわりながら、情報発信をしていきたいと思ひますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。とくに今年は、イノシシ年でございますので、関東大震災、そしてまた、当県におきましては、伊勢湾台風から60年目という年でもございます。そしてさらには、阪神淡路大震災もイノシシ年に発生しておる状況でございます。災害が多い年だともいわれておりますので、本県議会におきましても気を引き締めながら対応してまいりたいと思ひているところでございます。今年最初の定例記者会見でございますので、副議長からも一言ご挨拶をさせていただきたいと思ひます。

(副議長) あらためまして、新年、明けましておめでとうございます。私は、副議長として、広聴広報会議の座長を務めさせていただいております。今後とも、多くの県民の皆様方に、県議会の活動に関心を持っていただけるよう、広聴広報会議の充実に向けて、より一層取り組んでいきたいと考えておりますので、皆様方におかれましてもご理解とご協力をよろしくお願ひ申し上げたいと思ひます。以上でございます。

(議長) それでは、早速本日の発表事項の方に移らせていただきたいと思います。

ます。お手元に資料を配布させていただいておりますが、本日は、三重県議会でのボッチャ体験会の開催について発表させていただきたいと思っております。まず、開催趣旨でございますが、三重県議会では、2021年の三重とこわか国体・三重とこわか大会に向けた機運の醸成を図るとともに、三重県議会議員の障がい者スポーツに対する一層の理解促進を目的といたしまして、三重とこわか大会から正式種目となり、障がいの有無にかかわらず、誰でも楽しめる競技として注目されておりますボッチャの体験会を開催することとしております。日時場所につきましては、1月17日の木曜日、本会議散会後に概ね10時半頃からはなるかと思っておりますが、1時間程度、議事堂1階のエントランスホールで行いたいと思っております。当日は、スポーツ推進委員の方々からボッチャの実技指導をしていただく予定でございます。時間の都合上、県民の皆様方には体験していただくことはできませんが、見学は自由にさせていただくことができますので、ご関心をお持ちの方はぜひ当日三重県議会にお越しいただきたいと思っております。簡単ではございますが、私からの発表事項は、以上でございます。よろしく願いいたします。

2 質疑応答

○三重県議会ボッチャ体験会の開催について

(質問) ボッチャの体験会ですけど、どういう経緯でそもそも県議会で開くことになったんですか。

(議長) 経過といたしましては、代表者会議の中で、ぜひともそういったスポーツをより多くの方に知っていただくということで、とりあえず、議会としても体験をしていただく中でより広めていきたいという要望を代表者会議の中でいただきました。さきほども申し上げました通り2年後のとこわか大会において、初めて正式種目として取り上げられていくという状況の中で、やはり県議会といたしましても、体験会を実施していこうということで代表者会議の中で確認もいただいたところでございます。そして、日程調整等を進めさせていただく中で、この1月17日の日に開催をさせていただく運びとなったところでございます。

(質問) 当日の体験会というのは、議員の方の体験ということになるわけですか。

(議長) そうでございますね。1時間程度でございますので、できるだけ多くの方にボッチャの体験もしていただければと思っておるところであります。

(質問) 議員の方の体験だったら、別に議員の方が競技やっているとところに行けばいいと思うんですけども。わざわざ、この議会で開くということの意図というか趣旨はどういったところにあるんでしょうか。

(議長) ご指摘のように開催場所へ行けばいいというのもそうなんですけど、中々時間とタイミングと開催頻度等々からいきまして中々そういうのが、多くの方、多くの議員で経験をするというのが難しいというところでございまして、本会議の散会後であれば、全議員に見ていただく、体験していただけるということにより広く知っていただけるのかなということでの開催に至ったところであります。

(質問) おそらく17日の本会議もですね、そんなに多くの方が傍聴にいらっっしゃるわけではないと思われるんですけども。そうであれば一般の方も併せて体験できたりですかね、参加できるような機会があれば、なお、よいのではないかと思うんですけども、時間の制約で難しいということですか。

(議長) おっしゃられるように一般の方も参加いただける機会があればいいと思っておりますが、基本は、議員の方により多く参加をいただき体験をいただきたいという趣旨でございますので、残念ながら、1時間程度の開催でございますので一般県民の方は、見ていただくことは可能なんですけど、参加いただく時間としては、今回とることができないのかなという状況でございます。したがって、傍聴に来ていただく方も、開会日でございまして、議題もそんなに多くあるわけではございませんので、傍聴に来ていただく方も少ないかと思えます。また皆様方のお力添えで、そういった体験会を議会として開くということで情報発信いただければ幸いです。ただ、体験していただくことはできませんので、見ていただくだけという形になりますが、そういう機会の中でお力添えをいただければと思います。

(質問) 体験した議員さんらに、例えば今後どういう活動にこの体験を生かしてもらいたいだとか、狙いはどういったところにあるのかと。

(議長) とりわけ、その後の展開については具体的には考えていないところですが、それぞれの地域の中でそういう機会があれば、より多くの方に広げていただけるような、一助になればな、という思いでございます。

○議会経費削減に関する検討プロジェクト会議について

(質問) 議長も任期が4月までという、議員の任期と同時に議長も任期終了だと思わすけども、任期満了までにですね、議長としてこれだけは務めておきたい、やっておきたいということ、今現在の段階で、ありますか。

(議長) 残された任期の中で、ということでございますね。

(質問) おっしゃるとおりです。

(議長) はい、そうですね、今検討を進めさせていただいております議会経費の削減にむけて、プロジェクト会議の中で検討もさせていただいておりますので、概ね正副座長案が了承いただけたという方向でございますので、ぜひとも任期中には削減案が成立できるように、取り組んでいきたいと思っております。それとともに、先程も冒頭の挨拶で申し上げましたとおり、イノシシ年というのは意外と災害が多い年でもございますので、大規模災害の発生時の対応、先般も議員勉強会の中で講師の方のご指導もいただき、また検討会の中でもご指導もいただけてきたところでございますので、より実際の災害、大規模な災害が起こった時に実効性のある制度となるように、本年度中にまとめていきたいなと思っておるところであります。

(質問) 議会経費の削減ですけれども、今のところ、案として正式決定ではないですけれども、案が出ている状況ですが、この案について、どのように評価しますか。

(議長) そうですね、これにつきましてはプロジェクト会議の中で検討を進めていただいておりますので、次回、17日の日に最終案の報告等々のご検討をいただくやに聞いております。したがって、鋭意今努力をいただいておりますので、コメントは差し控えさせていただければと思います。

(質問) これ、いつになったらコメントされますか。

(議長) 最終、総会で報告がされ、また議決がされるかと思っておりますので、その段階では、コメントをさせていただけたらと思っております。

(質問) そのような中で、宿泊費については、実費精算を求める声もありましたが、実際は今、案の段階では宿泊費の削減という形になってましたですかね。

(議長) はい、旅費はもう議決をしましたので。

(質問) 旅費はOKですね。じゃあ、所感を述べていただけるということでしょうか。

(議長) ですから、報酬と政務活動費その他の議会経費っていう部分で今検討を深めていただいておりますので、その動向は見守っていきたいと思っております。

(質問) そうすると、宿泊費の関係についても、今は、今現段階ではコメントできない？

(議長) 宿泊については議決されておりますので、コメントできないっていうか、プロジェクト会議でそれも検討を深めていただいた中でございますので、実費精算も可能でもございますし、県の、執行部の運用に準じてっていう考え方だと思いますので、私もプロジェクト会議の結果は受け入れていきたいと思っております。

(質問) 実費精算は確か可能ではなかったと思いますけれども。

(議長) 失礼しました。認識間違いで。政務活動費は実費精算が可能で、公務出張等々は定額でございまして。失礼をいたしました。

(質問) 公務の方の宿泊費ですけれども、これ実費精算を求める声もありましたけれども、最終的に削減という形で決まったという経緯でございますか？

(議長) そうですね、地域別にわけながら、従来の金額から下がってきているというところでもございますし、執行部側としても、そういった運用が前にされておるといいうところもありますので、プロジェクト会議で検討いただいた結果と受け止めております。

—第二県政記者クラブの方も含めてお願いします—

○三重県議会ポッチャ体験会の開催について

(質問) 発表項目のポッチャは、議員野球並みにですね、将来なんかこう、他の都道府県議会と、議員と組んでですね、広げるような考えって今のところはあるんですか、ないんですか。

(議長) 先程もご質問いただいた中で今後の展開についてのご質問もいただきましたが、特に、三重国体、三重とこわか大会の中で正式種目に取り上げていただくということも含めながら、少しでも県民の方々に知っていただければと思っておりますし、障がい者スポーツについて、ご理解がいただければと思っておりますのでございまして、それ以外の、それぞれの地域での活動にそれぞれの議員が関わっていただければと思いますし、そういう機会があれば、ほんとう多少のベースの知識ではあるかと思いますが、認識をしていただいた中で対応いただければと思っております。

(質問) 議員野球との絡みは？もともと、三重とこわか国体でポッチャ入れるというだけの話だから、三重県ではそれなりに周知できるでしょうけど、けど他県議会等に、まだ種目として続けるかどうか分からないわけだから。逆に言ったら今、議員野球やられてますよね。まだ、確かあれあると思うんですけど。そういうふうな形で、全国的にある程度広めるような運動の起点になるようなお考えはあるのかどうかってお聞きしてるんです。県民どうのこうのは関係ないですよ。

(議長) 基本としては三重県議会として体験をしていただくことによって、理解と経験というか、認識を深めていただくということで、それをもって、全国発信していくというところまでは、今のところ考えていないところであります。

○安倍首相の伊勢神宮参拝及び年頭会見について

(質問) あと1月4日の内閣一行、野党も見えてましたけど、内閣をお出迎えされたんですよ。なんか感想はありますか。

(議長) 内宮、外宮ともに同席させていただいて、非常に多くの方がやっぱり、お見えいただいていたというのと、総理大臣として非常に少し時間がオーバーするぐらいの好評な、対応をいただいたというのが、実感として同席させていただいた感想であります。

(質問) 時間が押したってことだけが感想なんですか。

(議長) いえいえ、時間が押したんじゃないかって、人が多くて総理大臣として丁寧に対応していただいていたというのが感想です。

(質問) 例えば、総理が年頭会見で言われたこととか、あるいは、平成最後の内閣参拝であるとか、そういうことを含めての何らかの、前田議長自身の心の声はないんですか。

(議長) 従来から発信いただいている4月1日の新元号の発表もそうですし、さらには、地方創生の取組等々もお話がありましたし、リニアの質問も記者の方からしていただいて、答弁もいただいておりますが、新たな発信っていう部分ではなかったのかなと思っております。

(質問) 戦後外交政治の総決算の年にしたいっていうのは、それはどっちかっていうと年頭会見で出てきた話で、その後、山口の方に総理が墓参されて、もう少し踏み込んだご発言されてますけど、それについてはどう思われますか。戦後外交政治の総決算の年にしたいと総理がおっしゃって、外交における地平の新しい扉を開きたいとおっしゃったのは、それまで年頭会見以外では、出ていない話で、ロシアをひっかけておっしゃてるんだと思いますけど、その後、墓参に山口の方の、安倍晋太郎さんの墓とかお参りになって、言われた話っていうのは、それのそのさらにもう少し押し進めたものですが、あの年頭会見で生でそれお聞きになって、それについて何か議長はご感想はないですか。

(議長) 外交関係も含めながら、特にロシアだと思うんですが、以前から記者会見等も含めながら情報発信をされてきた話だと思いますので、先ほどから言っておりますように、年頭会見で新たにおっしゃられたという感覚的には、自分自身はないところであります。

(質問) 戦後日本外交の総決算の年っていうのは大きいじゃないですか。それ従来から言っていないでしょう。

(議長) そこはそうですけども、それをどうするっていう話ではありませんので。

(質問) 感想ですよ、あなたの。

(議長) ですから、ロシアとの外交も含めながら過去から情報発信されている項目でもありましたので、自分自身としては、そんなに重く受け止めてなかったというところであります。

(質問) 副議長は何かご感想は。総理一行の。あのときは自民党県議団でお付

きになってたんですか。行かれなかった？

(副議長) 行きました。私も総理に随行して参拝させていただきましたが、一議員としての参加ですので、総理と話をする機会もございませんでしたし、今言われている、総理は、自民党の総裁としての最終決算という形で今、臨まれているんだろうというふうに思います。我々自民党の最高トップ、責任者でありますので、総理を信頼しておりますので、これからの外交問題等も含めて、総決算という話でございましたけれども、しっかりと指導していただけるものというふうに理解をしております。

(質問) なんか私的な感想部分で、さっき議長が冒頭おっしゃった大勢の人に丁寧な対応をしていただいて、時間を押したとか、そういうことを含めてですね、何かありますか。

(副議長) 感覚としてはね、確かに、例年、一緒に参拝をさせてもらってますが、特に今年は、そういう意味で、丁寧にハイタッチをされて、時にはサインもするというような姿も見えましたんで、その辺が丁寧な国民との会話になったのかなど、そういう意味では丁寧っていうのは、従前よりは強く感じた、そんな次第です。

(質問) 統一地方選の年だなとそれは思わなかったですか。

(議長) そこまでは申し上げませんが、その辺の意識はされたのかも少しありません。

○行幸啓について

(質問) あと、4月18日に天皇皇后両陛下、多分来県されるときに、一応対応されるのは、今の正副議長ですよね。4月29日まで任期がおありになるので。前田議長も当然、そのとき、別に他に公務等がなければ、支障がなければ、当然お出になる形になると思いますけど、そこについての何か心構えみたいなのはありますか。

(議長) 本当、30年を、平成の時代を、現天皇として、ずっと遂行していただいたわけでございますし、最後の行幸啓という形の中で、多分、三重県が最後になられるのではないかと、知事の記者会見等も含めながら聞いておりますので、三重県としておもてなしの気持ちで受入れもさせていただきたいと思っておりますし、遺漏のないように対応もしていきたいと思っております。

(質問) 副議長は？

(副議長) 私も選挙が済んでおる時点ですので、どんな立場になっているかわかりませんが、しっかりと対応はしたいというふうに思います。

(質問) 立場関係なく、とりあえず出るんでしょ。正副議長が招かれれば。

(副議長) 機会があればですね。

(質問) 4月29日まで任期ですから。

(副議長) はい。

○県議選等について

(質問) あと、県議選の今のところの状況なんですけど、松阪以南がほぼ無投票に近い形になってると。これを特に議長がいらっしゃる会派っていうのは、一人区と、それと無投票、反対を掲げてた会派なんで、今、会派員でもおありになるし、その辺で何かご感想ありますか。

(議長) 多気郡が選挙にはなるようではございますけど、決して無投票がいいということでもないと思っております。結果として、無投票に多くの選挙区がなるというところではございますので、そういったことも含めながら、考え方としては早期に選挙区のあり方、定数のあり方というのは、是正していかなければいけないという認識はしております。

(質問) 要するに、無投票の区が多いということについては、決して望ましい形ではないということですか。

(議長) そうですね。有権者の方が選択をしていただけないということがございますので、やはり選挙で複数の方が立候補いただいて、政策議論をさせていただいた中で、投票行為で選択をいただけるというのが一番望ましい姿かなと思っております。

(質問) その選挙区云々という議長がずっとおっしゃっているものというのは、要は改選後に有識者なり、なんなりのプロジェクトというか第三者委員会を立ち上げて、そこで検討してもらいたいという、そういうご意向でいいんですか。

(議長) 議会で1年半議論を深めさせていただいてきたんですが、結論が出せなかったというところで、第三者機関を設置した中で、一つの指標をお示しいただいた中で、最終議会として取りまとめできればという思いであります。

(質問) 一部さっきの旅費とか報酬の削減なり見直しに絡むんですけど、これ今の出している試算数値、新政みえさんから出されているやつがほぼ6人増員した部分のそれに見合うだけの額という形になってはいますが、ということは逆に言ったら、全体それを減らすなら、定数は51のままでいいじゃないかという理屈も成り立つし、そういうこと思われている議員もいらっしゃるんですけど、その辺は議長としてはどうお考えなんですか。

(議長) 私は当初から先ほども言いましたように、定数としては1票の格差も含めながら見直していかなければいけないということで、今期に第三者機関を設置しながら次回改選後に早期改正につながるような取組が必要であるという認識であります。

(質問) 具体的にはどういうことですか。1票の格差って定数51だって1票の格差は是正できるわけです。必ずしも51を減らすから、要は選挙区の問題であって、定数51はそのまま維持したって、選挙区内の定数を増やしたり減らしたりすれば、1票の格差は減るじゃないですか。それからいったら、総定数51に見合うだけの議員報酬とか旅費、経費を削減したので、じゃあ総定数51のままでいいじゃないかという理屈も成り立つわけですね。それについてはどう思われますか。

(議長) ですから、定数51でいいとは私は当初から思ってないわけです。だから、経費を削減したからいいという議論ではなくて、本来の選挙区の定数、あるいは選挙区のあり方を三重県として、やはり人口が年々激減している状況の中で、南の地域をどうするかということは早期に検討しなければいけないと思っております。

(質問) 51でいいと思っていないという方がなんで51の方に賛成したんですか。

(議長) それは議長就任記者会見のときからずっとご説明をさせていただいてきた経過のとおりでございまして、45では選挙区のあり方としてよくないのではないかということで、新たな本来あるべき理想の形を求めるべきだという

部分の中で、51に一旦戻した中であるべき姿を見つけていきたいという思いであります。

(質問) だけど、そのときに議長はじゃあどのくらいの定数が妥当かというふうな数字は示されてないんですけど。

(議長) 示してます。

(質問) じゃあ何人ですか。

(議長) 47、8が私はベストだと思っておるということで、議長就任記者会見の後でもお話はさせていただいております。

(質問) だとすれば、51でその経費を削減して、6増の部分に見合うにしても、そのところは定数51のままというのは維持しない方がいいというお考えですね。

(議長) 経費を削減したから定数51でいいという考え方は、私は持っておりません。

(質問) 目標はあくまでも47、8ぐらいでいきたいという話ですね。

(議長) そうですね。私は当初から就任記者会見のときからその数字でお話はさせていただいたところです。

(質問) じゃあもっと遡って、なんで新政みえが中でですよ、館さんが前田さんの後を引き受けて選挙区調査特別委員長やられたときに、まとめたときに、中で48というのもありましたけど、最初ね、その時になんで会派内で48というのを主張されて、そういう形にならなかったんですか。それはもう主張されたけど、最終的に45で押し切られたという話ですか。

(議長) 私、そのとき副議長させていただいております、当初特別委員会の委員長を自分がしております、その後に途中で館県議に委員長を交代させていただいたという経過の中で、副議長として見守らせていただいていたところでもあります。

(質問) 会派総会で一言も発言されていないんですか。

(議長) 会派総会に出る機会もそんなに毎回というわけにはいきませんので、その中でいろいろ議論は重ねられてはきておりましたが、まとまる方向の中で見守ってきたという経過であります。

(質問) 主張はあったけど、あえて副議長という役がはまっていたから、あえて何にも発言しなかったということですか。

(議長) 発言しなかったということではなくって、議会としてまとまる方向に見守ってきたというところであります。

(質問) まとまった方向が45だったわけじゃないですか。

(議長) 基本的にはそうですね。

(質問) それについて反旗翻されたわけですよ。51に賛成したんだから。

(議長) 改選後に見直しをできるという状況の中で、45の方向でまとめてきたというところもあります。

(質問) だから、大いなる矛盾はらんでいるんですよ。45という定数条例ができていて、なおかつ51に戻すという案のときに6増になるんですよ。あなたは47か48とおっしゃっているんだったら、45のまま生かすという方向もあったし、51に生かすという方向もあったと思うけど、なんで51を選択したかということについてはなんの理由説明もないですよ。

(議長) 何度も説明させていただいておりますが、45に減らした中で、後で増やすということ、あるいは選挙区を変更するということは、非常に県民の方にご説明しにくいということで、とりあえず現状の51に戻した中で47、8のあるべき姿に戻すべきだという説明をずっとさせてきていただいています。

(質問) ご説明しにくいというのは、あなたが勝手に思っているだけであって、逆に言ったら、一度定めた条例を1回も実施しないで他にまた新しく変えるということの方がよっぽど県民に説明しにくいでしょ。だから、今県民等から県議会に対して不信の声もあるし、そういうコメントも来ているじゃないですか。だとしたら、そこは政策判断ミスでしょ。

(議長) 考え方の部分でございますので、県民の方への説明責任としては、まだまだ十分ではないのかなという認識もありますけれども、その部分の中で苦渋の選択をさせてきていただいたというところであります。

(質問) 県民への説明というのはいつやるんですか。それとも選挙終わったら、51に賛成した議員はかなり落ちたと。そしたら、それは県民の実は心の声だったと。そのときに反省する云々って言ったって、もうあなたは議員じゃないんだから、どういう形でじゃあ返すわけですか。

(議長) ずっといろんな機会の中で広報活動というのは定数問題もそうですし、させてきていただいていると思っております。ただ、それが十分でないというのは県民感情の中で受け止めているというところであります。

(質問) 話がかみ合わないですけどね、その辺が。あと、今野党の状態が立憲、国民両方分かれていて、岡田衆議院議員も一応立憲に入られたりとか、三重民主連合そのものが地域政党としてあって、その下にぶら下がっているという形で、芝さんにしたって松田さんにしたって顧問参加らしいんですけど、ちょっと野党全体がわかりにくくなっている状況について、議長はどう思われますか。

(議長) 非常に複雑な状況だということで、見せていただいております。できることなら野党で一枚岩になるのが一番ベストではないかなと思っております。

(質問) 一枚岩でベストになるときに、つなぎ役というのはどういう団体か、人でもいいですけど、何かお考えありますか。

(議長) 特に政党の問題でございますので、私がとやかく言う話でもございませんし、所属もさせていただいておりませんので、一般論としてのコメントにとどめさせていただきたいと思っております。

(質問) 一般論でも述べてないじゃないですか。

(議長) 一般論としては、ですから、野党が一枚岩になっている方がベストではないかなという話です。

(質問) 連合にはあなたは属されていますよね。

(議長) 連合にはそうですね。

(質問) 連合がつなぎ役とかいうのはどうですか。国民と立憲の。

(議長) 今の政党の動向、状況につきましては、非常にそれは難しい状況なのかなと思っておりますけどね。

(質問) 難しいというのは、連合がつなぎ役やっても、なかなか難しいという話ですか。

(議長) そうですね。

(質問) そこは前田さんも同じ考えだと。

(議長) 難しいと思いますね。

(以 上) 11時8分 終了